

## スピーチ：低炭素都市推進国際会議 2009（2009年10月5日）

おはようございます。私はコペンハーゲン市の技術・環境担当市長を務めておりますクラウス・ボンダムと申します。

はじめに、ここ日本で、コペンハーゲン市のこれまでの体験と今後の目標について発表させていただきます機会を頂いた主催者の方々に感謝申し上げます。多くの皆様のご存じのように、本年12月コペンハーゲンで国連気候変動枠組条約第15回締約国会議（COP15）が開催されます。意欲的な合意ができるよう努力したいと思います。

本題に入る前に、コペンハーゲンの実情についていくつかご紹介させていただきます。コペンハーゲンは、デンマークの首都であるばかりでなく、デンマークとスウェーデンにまたがるエーレスンド地域の中心地でもあります。コペンハーゲンは、都市部面積わずか91.3平方キロ、人口50万人、15の自治体に隣接している、東京と比較しても、とても小さな都市です。小さな都市ではありますが、大都市と同様に環境と気候に関連した課題に直面しています。

この15年の間に、コペンハーゲンは二酸化炭素排出量を20%削減しました。これからの数年間で削減率はさらに向上すると考えています。

しかし、私たちのエネルギー効率に関する取組はずっと以前に始まりました。1925年に初めての地域暖房システムがコペンハーゲンに設置され、1993年にはコペンハーゲン市内の建物の地域暖房システムへの接続が義務化されました。それ以降、私たちはエネルギー消費と二酸化炭素の排出を削減してきました。

したがって、私たちはゼロからスタートしたわけではありません。事実、コペンハーゲンの98%の建物が地域暖房システムに接続されており、エネルギーの30%は、風力、バイオマス、廃棄物焼却のような再生可能資源を利用しています。

本年8月、私たちは、意欲的な「コペンハーゲン気候計画」を採択しました。（英語版の計画を示す）この計画の中で、コペンハーゲンは2005年から2015年までの二酸化炭素削減目標を20%に設定しています。同時に、この計画には、最終的に2025年までにカーボンニュートラルに移行するための第一歩となる施策が示されています。

「コペンハーゲン気候計画」には、50の取組が盛り込まれており、6つの行動分野に分類されています。

- ▶ エネルギー供給に占めるバイオマスと風力発電の割合を大幅に高める。
- ▶ 電気自動車、水素自動車の利用を支援するインフラを整備し、環境を考慮した交通手段の利用を促進する。
- ▶ 低エネルギー建築—ここでは市が先頭に立ち、市関連の建物を改築する。
- ▶ 市民の参加を促し、新しくサイエンスセンターを設立して、若者を教育する。
- ▶ 市内の新しい建物が少ないエネルギーで稼働できるようにし、気候に重点を置いた市内開発を行う。
- ▶ 最後に、コペンハーゲン市の「気候適応計画」を実際に策定することで将来の気候に適応し、ポケットパークと呼ばれる小さな緑地地帯を市の周辺に配置する。

私たちの試算によると、これらの取組を実施することで、炭素排出量は60%削減されます。しかしながら、課題に対応し、2025年にカーボンニュートラル都市になるという目標を達成するために、私たちは現在、民間部門と公益事業会社との戦略的協力を推し進め、官民提携を確立しようとしています。

コペンハーゲン市は、エネルギー生産会社に直接的な影響力は持っていないため、私たちが目標を達成する上で、こうした提携関係が不可欠となるのです。

しかし、2015年までに二酸化炭素排出量を20%削減するという短期目標はすでに厳しい課題となっています。発電所で石炭をバイオマスに転換し、風力発電の生産量を増やすことで、この削減目標を実現する考えです。

コペンハーゲン市では、新たに14の風力タービンを建設する計画を立てています。風車は、すでにデンマークの風景の一部になっていますが、今回は市内および市境界線外に積極的に風力タービンを建設する予定です。

コペンハーゲン市民がこの事業に参加することが私たちにとって肝要であり、したがって市民が出資の機会を持つこともあるでしょう。これによって、気候変動問題に対する共通認識が生まれ、風力タービンへの支援の強化に貢献することになるでしょう。しかも風力タービンは人々の家や職場に比較的近いところに建設されるのです。コペンハーゲン市民に環境問題や気候問題への関心を持たせる私たちの取組はこれだけではありません。コペンハーゲンでは、市民が主体となる地域活動の運営・着手を行う「アジェンダ21」事務所を積極的に支援しています。私たちは、地域に根付いた環境プロジェクトの枠組みを可能な限り最良のものにできるよう努力しています。

コペンハーゲンには、市民を巻き込んだもうひとつの達成目標があります。それは、世界一の自転車都市になることです。現在、市民の37%が自転車で通勤・通学しています。私たちの目標はこの割合を2015年までに50%にするというものです。私たちは、コペンハーゲンを「自転車が（最も）合理的な交通手段である都市」へと発展させていきます。すでに整備されている自転車道路網をさらに拡大させ、より安全に自転車に乗れるようにすることで、この目標を達成するつもりです。さらに信号を自転車の速度に合わせ、市内の主要な通りを走る自転車がいわゆる緑の波（信号機の緑が続くこと）の中を走行することで、市内でより速く自転車を運転することが可能となっています。

私たちの取組の結論として、グリーン経済実現へ向けた取組の中で得たいいくつかの教訓をまとめたいと思います。

何よりもまず、意欲的な目標を達成するためには、都市が意欲的且つ現実的で達成可能な目標を設定することが不可欠です。私の考えでは、こうした目標は、市議会の賛同を得ることが必要です。

目標が採択されたら、この目標をいかに達成するかを規定した戦略的計画を策定することが不可欠です。この過程においては、例えばちょうど今私たちが計画しているような気候や環境に関する対策なら、そうした対策は、すべての関連する政策や取組に組込まれるようにすることが重要です。都市が統合されたアプローチ（戦略が将来に向けた都市計画の取組の中

の自然な一部となっている)を生み出すことに成功したら、その策定は、正しい方向に向かっているのです。

地域暖房に関する戦略的計画、自転車政策、市民と市内の民間企業に対する環境への取組の普及活動を通して、コペンハーゲンは、経済成長と環境に優しい発展を実現してきました。重要なことは、環境に配慮した経済成長は可能であるということです。

最後に、コペンハーゲンにおいて私たちの目指すところは、二酸化炭素の排出量を削減することだけでも、エネルギー問題に重点的に取り組むことでもありません。

私たちの総合的な目標は、住みやすく、市民によって積極的に利用される都市へと発展していくことなのです。コペンハーゲンは、人々の健康と持続可能な発展に重点を置いた都市を目指します。それがグリーン経済の実現へ向けた道のりなのです。

ご清聴いただきありがとうございました。